



COPAL

カメラとシャッター

オランダ伝来のレンズキャップ式シャッターによる撮影



カメラとシャッター

天保12年、日本に始めてカメラが伝わったのは、フランス人ダゲールの発明後、僅か3年目の事です。真昼の太陽の下で約15秒、手で取外して、又はめる——レンズキャップ式のシャッターで撮すと、乳剤の乾かぬ中にあわてて現像したものです。

間もなく乾板が発明され、写真屋さんはハイカラな技術者として登場して来ました。この頃の組立暗箱に使用されたシャッターは、空気の圧力を利用して開閉する幼稚なサイレントシャッターでしたが、大正も終り頃からスピードのでるスプリングを使ったレンズシャッターつきのアメリカのベストポケットコダック、ドイツのピコレットなどに似たパーレットカメラが日本でも製造され、ロールフィルム、更に35ミリフィルムの出現と共に、フォーカルプレキシャッター組入れのドイツのライカが登場しました。

そして……

1949年、戦後の荒廃の中から立ち上がったコパルは、やがて精密工場にふさわしい志村城跡にオートメーション化された画期的なシャッター工場を建設。世界的な日本カメラブームの一原動力となりました。

1/1000秒つきシャッター、露出計連動シャッター、特殊連動シャッター、ペンカメラ用シャ

ッター、ビューカメラ用No. 3シャッターを始め、金属羽根つきのユニット・フォーカルプレキシャッター等独創的なアイディアを生み出す設計室、測定室、型の加工、プレス作業化学処理、熱処理、200数十に及ぶ部品の精密加工……1ミリの1000分の1の狂いも許さずに加工されたこれらの部品は、厳密な検査、諸種の性能試験を経つつ、コンペアーに乗って次々と組み立てられ、コパルシャッターとして一流カメラメーカーにおくられていきます。

こうした高度に合理化された工場と精密技術からは、ミニモーター(超小型直流電動機)各種精密工作機械を始め引伸用電子自動露光装置が製造されています。

スタッフ

製作 ● 村山 英治
監督脚本 ● 樋口 源一郎
撮影 ● 藤井 良孝
照明 ● 高橋 一造
録音 ● 伊藤 享
進行 ● 利光 久輝
音楽 ● 長沢 勝俊
解説 ● NHK 宮田 輝

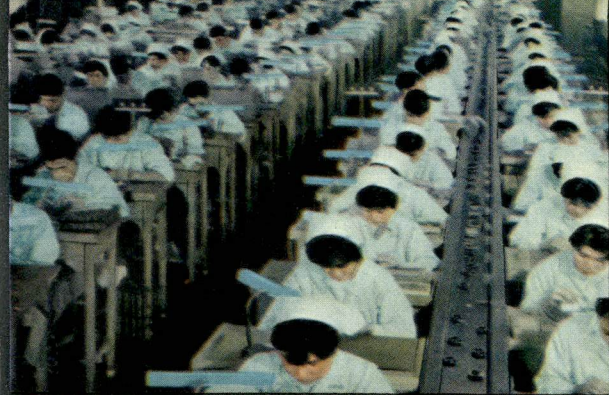
企画 ●

株式会社 **コパル光機製作所**
製作 ● 櫻映画社



cutting
2/24/71 2/24/71

コンペアーによる組立



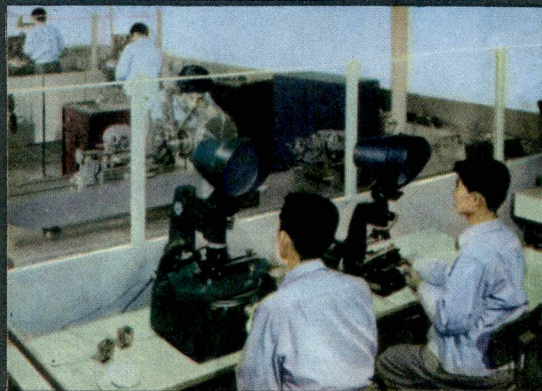
ベストポケットコダック



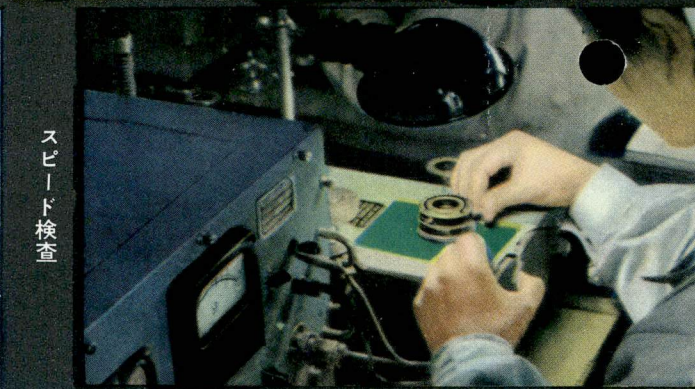
組立



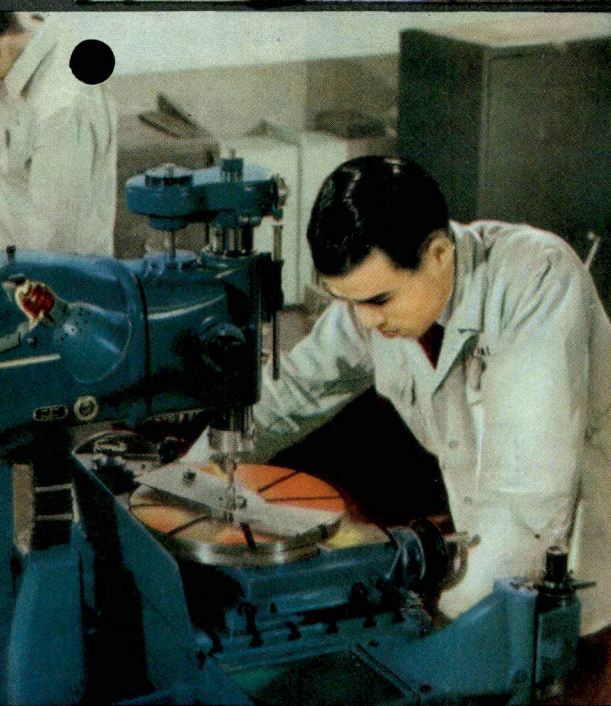
精密測定室



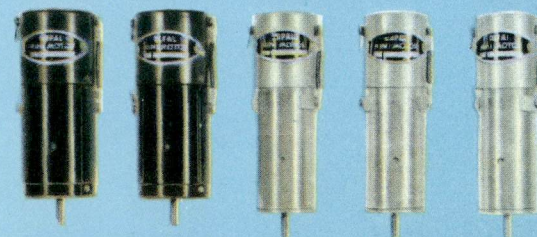
スピード検査



型加工



電機製品の心臓・超小型直流電動機



よいカメラにはよいシャッター

COPAL Shutter



株式会社 **コパル光機製作所**

東京都板橋区志村町 TEL (901) 1101~7